

統合医療とミトコンウォークについて

○五寶秀美<sup>1</sup>、橋本知子<sup>1</sup>、田村有希<sup>1</sup>、神徳美奈江<sup>1</sup>、庵前美智子<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>  
森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

<sup>2</sup> 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【背景・目的】

当院では、補助治療を組み合わせた統合医療システムを構築し、不妊治療に精通した看護師が統合医療コーディネーターとして患者のニーズに寄り添い、補助治療の提案をしている。ミトコンウォークは、活性酸素発生量を調整することによりミトコンドリアを最大限に活性化させ卵巣機能を高めるウォーキング法として、森本(2012)が考案したものである。30分という短時間で取り組みやすいものと考え、患者の実施状況の把握は重要である。患者の実施状況・効果について検討したので報告し、今後のより良い指導について考えていきたい。

【対象・方法】

2014年1月～2016年4月に胚移植を受けた患者延べ3915名を対象とした。胚移植後の質問用紙にて、ミトコンウォークに関する項目の回答を得た。

【結果】

ミトコンウォークの認知度は53.9%だが、その中で実行している方は40.1%にとどまった。

ミトコンウォークについての自由記述のカテゴリズにおいては、実施している患者の88.7%が良い効果を実感できていた。内訳は、血流改善29.7%、総合的な健康の改善31.5%、心身の爽快さ22.4%、胚質改善5.1%であり、心身ともに良い効果を実感していることが確認できた。

【考察・課題】

ミトコンウォークの実行率を上げるため、院内では、昨年6月よりウォーキングマシンを使ってのミトコンウォーク指導を導入し、より多くの患者が実践できるようになった。指導時にはWHOのQOL26を用いQOLを可視化している。QOLの可視化はミトコンウォークの効果を実感しやすく、患者のモチベーションを上昇させ、不妊治療の効果を上げることが期待できる。また、実施患者にはフォローアップを行い、長期間の継続を可能にするなど、患者のニーズに即したかわりが重要と考える。